

中途・第2新卒を少人数採用したものの、社内で新人研修を組むのは難しい——。
そんな企業の人材育成を、1社1名から参加できる合同研修でサポートします。

■ DX/AX時代の人材育成5日間集中プログラム ■

自律型IT人材 育成講座

中途採用

第2新卒

キャリア
転換

IT未経験

「自ら考え、AIを活かして学び・行動できる“自律型IT人材”」を育成

AIPではDX/AX時代の人材育成として、中途採用や第2新卒、IT未経験者などを対象とした「自律型IT人材育成講座」を新設いたします。

AIPの20年以上のエンジニア向け新人研修ノウハウを凝縮し、IT企業で働くために必要なビジネス知識やICT/DXの基礎から、AIの適切な利活用までを短期集中で学びます。

さらに、AIを単に答えを得るためのツールではなく「自分専用のメンター」として活用。
自ら考え、学習計画を立て、実践・検証・改善を繰り返す学習方法を身につけます。
研修後も知識や技術を自ら学び続け、成長できる**自走力**の習得を目指す実践型講座です。

AIPが考えるDX/AX時代に求められる「自律型IT人材」とは？

DX/AX
とは？

- ① デジタイゼーション : アナログの情報を**デジタル化**
- ② デジタライゼーション : 業務プロセスや業務フローを**デジタル化**
- ③ デジタルトランスフォーメーション(DX) : **業務や組織を変革**し新たな価値を創造
- ④ AIトランスフォーメーション(AX) : **AI技術を活用し**、仕事やビジネスの仕組みを変え新しい価値を生み出す



DXは「**デジタル化**」が必須！そのためにはまずデジタル化すべき要素(課題)を「**分析/見える化**」し、状況をリアルタイムにとらえ、どのように「**カイゼン**」していくかを「**論理的**」にまとめ「**提案**」「**解決**」する能力が必要では？

さらにAIを適切に活用しながら、自ら考え判断する「**自律力**」と、必要な知識や技術を自ら学び、行動し続ける「**自走力**」も、これからのIT人材には必要では？

目指す
到達点は

課題発見・解決力
(考える力・提案する力)

×

自律力・自走力
(学び続ける力・行動する力)

を備えた「**自律型IT人材**」の育成！

分析力

提案力

論理的
思考

ICT知識

自走力
自律力

AI活用力

自律型IT人材育成講座カリキュラム

◆5日間(10:00～17:00/合計30時間)+講座後の自律学習の仕組み

講座名	内容
ビジネス・ICT基礎講座	押さえておきたいビジネスマナーや、提案書や報告書作成時に必要となるビジネス文章の基礎知識に加えて、DX/AXの基盤要素となるICT知識(ITパスポートレベル)を理解します。
DX基礎講座	DX/AX推進の根幹である「課題発見」に必要な考え方と手法をDX推進事例から理解します。また「見える化」や「カイゼン(小さく早く始める)」の具体例を通して理解します。
DXツールワークショップ	業務フローを見える化・改善するまでの流れをワークショップで実体験し理解します。実際にDXツール(Kintone)を利用した業務システムの作成を行うワークショップです。
AI利活用講座	生成AIの仕組み/特性/限界を理解し、多様なAIツールを業務/学習に活用することを学びます。AIインタビューによる経験の棚卸しから、資料作成・ペルソナ活用などの実践演習です。
AIメンター型自律学習ワークショップ	AIを自分専用のメンターとし、自ら学習計画/実践/検証/改善を繰り返す学習サイクルを体験。講座後も学習を継続するための引き継ぎ書を作成し、機能することを確認して持ち帰ります。



5日間で終わらない講座です。講座後も自ら学び続けるための仕組みを持ち帰ります。

「AIメンター設定」「学習引き継ぎ書」「検証/相談用ツール」+ 研修中に学習サイクルを実際に体験

対 象	中途採用者、第2新卒者、IT未経験者（キャリア転換や新任DX担当者など既存社員の方も受講可能です）
日 程	2026年10月26日(月)～30日(金)/11月16日(月)～20日(金)/12月14日(月)～18日(金) ※毎月1回開催予定 10:00～17:00(6.0h/日)×5日間 全30時間
会 場	福岡県未来ITセンター セミナールーム(福岡県福岡市博多区千代1-20-31 福岡県千代合同庁舎 8F)
定 員	10名（定員になり次第締切） ※1社1名から参加可能です。
料 金	¥250,000/人(税抜) / ¥275,000/人(税込) ※研修で使用するノートPCは各社様でご用意をお願いしております。(PCレンタル有/別費用)
備 考	研修用AI環境を用意するため、受講者個人での生成AIアカウント作成や利用料負担は不要です。

FAQ



AI初心者でも受講できますか？

また、AIに任せきりにせず、自ら考えてAIを活用できる力を身につけてほしいのですが。

基本的な仕組みや特徴、利用上の留意点から学ぶため、初めての方でも安心して受講できます。AIに答えを求めるだけでなく、目的を整理し、その回答を確認/検証するなど、**人が主体となってAIを活用する力**を養います。

さらに、**答えを出しすぎない「AIメンター」**を自ら設定し、自分で考えながら学び続ける方法まで実践します。



非情報系出身やプログラミング未経験でも大丈夫でしょうか？

研修をきっかけに、その後の技術学習を自分で進められるようになってほしいのですが。

基礎から学べる内容のため、非情報系出身やプログラミング未経験の方でも安心して受講できます。本研修が目指すのは、5日間でプログラミング言語を習得することではなく、研修後も自ら学習を進められる力を身につけることです。

AIを活用した学習サイクルを実践し、研修後も活用できる「AIメンター設定」「学習引き継ぎ書」「検証/相談用ツール」などを持ち帰ることで、自ら学び続ける「自走力」の習得を目指します。



お問い合わせ/講座ページ&お申込み



<https://qr.paps.jp/myVCx>

ご質問や資料のお取り寄せなどがありましたら、メールもしくはサイトのフォームからお気軽にお問い合わせください。

✉ office@npo-aip.or.jp 🏠 <https://npo-aip.or.jp>



◆1日目 (ビジネス・ICT基礎講座)

・到達目標 – IT企業で働くための基本的な「共通土台」を身につける

内容
社会人・IT人材としての基本姿勢/ビジネスマナーとは何か、「相手に不快感を与えない」という考え方。
「正確に伝える」ためのビジネス文章/5つの基本原則、事実と主観・意見を切り分ける、5W1H。
IT企業で働くための前提知識/情報・ユーザが主役という考え方、技術提供だけではなく、課題を解決するサービス業。
押さえておきたいICT基礎知識/ITパスポートを基準としたICT基礎知識の全体像。

◆2日目～3日目 (DX基礎講座、DXツールワークショップ)

・到達目標 – 業務の課題を発見し、改善を考え、デジタルを活用して形にできるようになる

内容
DX/AX時代に求められる考え方/DXとは何か、デジタルを活用して業務やサービスをより良く変えていくという考え方。
課題発見と見える化/現状を整理・分解して見える化、「もっと良くできないか?」という視点から課題を発見する。
カイゼンの考え方/最初から大きな改革を目指すのではなく、小さく始め、実行・振返りを繰り返して改善に繋げる。
DXツール活用の基本/ツール導入を目的とせず、解決したい課題や目的に応じてデジタルを「手段」として活用する。
業務フローの見える化と課題分析/業務を分解して業務フローを作成し、ムダ・重複・属人化などのポイントを洗い出す。
理想の業務フローと改善策の検討/現状のやり方にとらわれず課題解決の理想業務フローを考え、必要な改善策を検討。
DXツールによる業務改善の実践/DXツール(kintone等)を活用して業務システムを作成し、考えた改善策を実際に形に。

◆4日目～5日目 (AI利活用講座、AIメンター型自律学習ワークショップ)

・到達目標 – AIを適切に活用し、自ら考え、学び、成長し続ける「自走力」を身につける

内容
生成AI導入/生成AIの仕組み、Markdown記法、AIインタビューによる「経験の棚卸し」、画像からの文字起こし。
AI演習/資料作成AI(Canva,Genspark)、調査AI使い分け、音声生成とペルソナ活用、AIでのシステム構築(HTML+JS)。
AIメンター構築/AIをメンターに、学習プロフィール作成、AIメンター構築(答えを出しすぎない設定を自分で作る)。
学習地図構築/学習の地図を描く(計画の妥当性を判断)、教材と課題をAIに作らせる、学習サイクルを1周回す(講師が個別に支援)、検証(AIの答えを確かめる)、相互インタビューによる理解度確認。 ※学習テーマは難易度別に3段階(A.未経験～入門/B.初級/C.経験者)をご用意、ご自身で設定いただくことも可能です。全員が同じ学習プロセスを回します。
引き継ぎ書構築/引き継ぎ書を作り、新しいAIに読ませて実際に機能するか確かめる。
継続支援/明日からの環境を決める・共有。

●講座後、表のサイクルをご自身で回せる状態を目指します

①現在地 経歴	できること・できないことをAIに伝える形で言語化する。
②地図	学習目標を決め、AIに計画を作らせ、妥当性を自分で判断する。
③教材	自分に合った教材・課題をAIに作らせる/合わなければ直させる。
④実践	自分で書く。詰まる。整理して相談する。エラーを切り分ける。
⑤検証と更新	AIの答えを検証する。理解度を確認する。計画を修正する

●お持ち帰りいただくもの

①引き継ぎ書	研修後、AIに読ませて学習を再開するための文書。
②道具箱	エラー相談、検証チェックリスト、振り返りと再計画等の全6点。
③1周目実績	学習サイクルを実際に1周、回しきったという事実。